

大麦特報 第2号

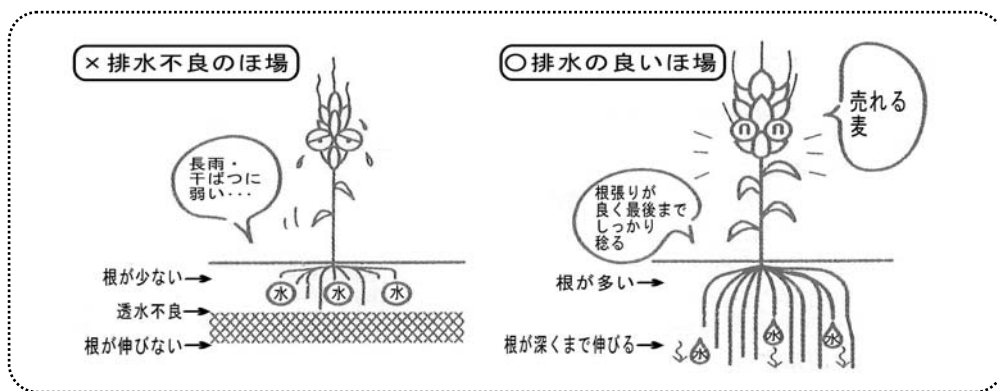
平成29年11月
富山農林振興センター
富山市農業協同組合

今年は、周期的な降雨により、大麦の播種作業が遅れたほ場が多く見られます。

年内の生育量を確保するため、「排水対策」を徹底するとともに、分施の場合は「年内追肥」を確実に施用しましょう。

排水対策の徹底

排水溝の連結が不十分なほ場が見られます。大麦は、水が溜まると根腐れ症状（湿害）が発生し、著しい生育不良になります。早急にほ場内の排水状況を確認し、水たまりがなくなるように排水溝を連結するなど、手直しを行いましょう。



排水対策のチェックポイント



③ 溝の水尻への連結確認

④ 水尻の掘り下げ確認

播種1ヶ月後追肥の施用（分施の場合）

年内追肥は、莖数の増加を促すとともに、穂数や収量の確保に重要です。播種時期に応じて、遅れないように施用しましょう。なお、生育量が不足している場合は排水対策を先行しましょう。

【施用時期及び量の目安】

施用時期	肥料名	10a 当たり施用量
播種1ヶ月後頃	硫安	20kg

（注）大麦専用基肥一発肥料を施用している場合は、追肥の必要はありません。

※今後の生育状況により、年内2回目追肥の施用が必要となる場合は、特報でお知らせします。